



福岡空港搭乗口での手渡し式

「献上若布だけは最上のも品質を懸念していたが、納された。」

品質を懸念していたが、献上若布だけは最上のも品質を懸念していたが、納された。



全日空客室乗務員に手渡される若布

四月八日高向宮司、漁協関係者らが宮中へ参内し、賢所、天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮家へ、早春の玄界灘産の若布を献上申し上げた。

この若布献上は昭和三十八年の第一回から毎年行われ、海洋神事奉賛会(宗像・鐘崎漁協で構成)会員が、潮の荒い玄界灘で採取し奉納、それを神職・巫女が厳選し形を整え規定の量を袋に納めたものを献上している。

今年も異常気象の影響か、三月に入っても一向に若布の生育が見られず、さらに時化日が増え、さらさらに出ることも叶わず関係者は非常に気を揉むこととなった。ようやく三月中旬から採取が開始され、伝統的技法をもって乾燥された板状の若布が奉納された。

第四十八回「若布献上の儀」

皇室へ若布を献上



5月祭事暦

- 毎月1・15日 ^{つばき} 月次祭
 - 午前10時～ 高宮祭
 - 第二宮・第三宮祭
 - 宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～ 総社祭
 - 浦安舞奉奏(1日)
 - 豊栄舞奉奏(15日)
- 5日 五月・浜宮祭
 - 午前10時30分～ 浜宮祭
 - 於=宗像市神湊 浜宮
- 午前11時～ 五月祭
 - 於=宗像市江口 五月宮
- 27日 沖津宮現地大祭
 - 午前7時 大島港 出港
 - 於=沖ノ島・沖津宮

当大社の建物も至る所に傷みがあり、折に触れて巧みの技に驚かされることもある。例えば社寺建築には建物の基礎に石が使用される事があり、石に合せて柱が綺麗に削り抜いてある。どうやって石に合せて掘るのか疑問に思うが大工さんにとっては当然のことらしい。また柱と桁をつなぐ場所に蛙又と呼ばれる組木が入られているが、これは単なる飾りではなく一箇所に力が集中しないように分散させる役割があるとの事。柱を立てるにも上下があり根元を下にし、伸びた方を上に使うことにより耐久力を増すとの事。板を使用するにも表裏があるなど、ありとあらゆるところに繊細な気配りがされている。▼伊勢の神宮では式年遷宮が二十年に一度だけ行われるが、これは建物を新しくするだけでなく神宝から装飾品まで全てが新調されており、その技術の伝承を保持するために二十年という目安になっており建物の耐久性の問題ではない。後世に技術を伝承させることに重要な意味を持つている。▼この技術の伝承を大事にしてきたからこそ、資源がない日本は物作りの技術の高さで今まで成長を続け、世界をリードした歴史がある。しかしコスト削減で工場も次々と海外に移され日本が誇る職人技が失われ、国内の技術会社は次々と倒産の危機に追い込まれている。この職人技を失うと日本は益々衰退するようになる。 (華)

神具・装束・授与品

井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
 フリーダイヤル 0120-075-980
 福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
 フリーダイヤル 0120-055-092
 授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



本題での奉告祭を終へ、献上へ出発される地位代表の三氏



奉製作業中の巫女ら



若布 献上



若布と同じ便に搭乗される方々へは縁起物が配られました。



のを」という奉賛会の思いのもと、丹誠込めて調製され、磯の香も芳しい濃緑の見事な若布であった。

乗客に、記念品として張子の縁起物が手渡され、一行は空路東京へと向かった。

参内の旨を言上、同掌典長を通じて賢所に献上申し上げた。

衆議院議員 下村博文氏 参拜



境内の桜も見頃を迎えた四月四日夕刻、衆議院議員の下村博文氏が参拝された。

高崎市の生まれ、早稲田大を卒業後、都議会議員を二期務められ、その後東京十一区より選

を無事終えた。尚、今年の若布献上に際し、格別の御支援を賜りました出光興産(株)、全日

本空輸(株)をはじめ、関係各位には紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

- 宗像大社 宮司 高向 正秀
権禰宜 高向 正秀
鐘崎漁業協同組合 権田仁八郎
代表理事組合長 権田仁八郎
宗像漁業協同組合 大島支所長 田志 覚

春の交通安全キャンペーン

大型商業施設で実施



キャンペーンに参加された各団体の皆様

ンが行われ、当大社からも神職一名に巫女四名が出向し安全運転を呼びかけた。

当日は午前十時に集合、宗像警察署の安部一文交通課長から挨拶と説明が行われ、さっそくキャンペーン活動に入った。参加者はサングリップ入口に立ち、「事故を起こす米、飲酒運転は許す米」と書かれた宗像産米やティッシュペーパー、子供には風船が、そして当大社からは交通安全御守と交通安全の由緒書が、買い物客らに配られた。

春の交通安全県民運動(四月六〜十五日)に伴ない、神郡宗像でも四月十日宗像市くりえいとの大型商業施設で、宗像警察署、宗像交通安全協会、宗像地区安全連転管理者等協議会、宗像地域交通安全活動推進委員協議会など関係団体から約六十名参加し街頭キャンペーン

交通安全の御神徳で知られる当大社の御守は好評であり、巫女らの周りには大勢の人だかりができるほどで、わずか四十分で予定の三百体を配り終えた。またキッズコーナーでは、白バイやパトカーに乗ったり、福岡県警のマスコット「ふ

っけい君」の着ぐるみとの記念撮影も行われた。

今回の県民運動の重点項目は、①後部座席を含むシートベルトとチャイルドシートの正しい着用、②自転車の安全利用、③飲酒運転の撲滅である。

宗像警察署管内では十日までに、人身事故で二四三件(前年同期二六七件)の交通事故が発生。死者〇人(一人)、三四人(三四四人)と前年同期を下回っている。三年前に比べればさらに減少率は高く、宗像管内では交通事故が減少している。今後もこの数字を維持し、交通事故の減少を祈りながら一同帰社した。



第三十一回春季奉納吟詠大会



本殿での奉納吟詠

松口月城先生奉納の「宗像宮」が、大前で会員一同により合吟されると、多くの参拝者がその美声に聴き入り暫し足を止め深い感銘を受ける様子がみられた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開会され、三十年以上に亘る初代宗家・河野鶴洲氏に当大社高向宮司より感謝状と記念品が贈呈された。その後、会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟題に沿った吟詠が披露された。

四月三日、春麗らかな陽気の中、春季恒例の神賑行事である奉納吟詠大会(主催〓鶴洲流、宗家〓河野鶴聲)が開催された。

この奉納は昭和五十一年からだが、昨年は初代宗家・河野鶴洲氏逝去(平成二十年十月)の為見合わされた。

今年は二代宗家を襲名された河野鶴聲氏が、北九州地区を中心とした会員約六十五名とともに参集、正式参拝並び奉納合吟が奉仕された。



感謝状を受けられる河野鶴洲氏御令室

河野鶴洲氏 略歴
昭和二年、北九州市生まれ。昭和十五年、関西吟詩師範の竹中大洲先生に師事、翌年鶴洲の吟号を授与される。昭和三十年、鶴洲吟詠会を設立し鶴洲流鶴洲詩吟会の宗家会長となる。北九州市教育文化功労賞、福岡県教育文化功労賞を受賞されている。

春季大祭 齋行

四月一・二日の両日、境内の桜は開花が遅れ七分咲きの中
ではあったが、春季大祭が齋
行され、平日にもかかわらず

多くの氏子・崇敬者らで賑わ
った。
四月一日は生憎の雨の中、
午前十一時高向宮司以下神



地元中学生による浦安舞

職、氏子奉幣使、立部瑞真鎮国寺副住職、主基地方風俗舞保存会員、浦安舞奉仕者、総代等が齋館前に列立し本殿へ参進。高向宮司が国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穰を祈念し祝詞奏上、続いて氏子会を代表し花田祐輔氏(福津市渡)が奉幣詞を奏上した。

安絵巻が繰り広げられた。
翌二日は、午前十一時より二日祭が齋行され、海上安全、大漁満足を祈念された。祭典後には海洋神事奉賛会事業に対し功労のあった会員十二名に、当大社より感謝状と記念品が贈呈された。
その後、高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと、宮司以下各神職・参列者がそれぞれ祭場へ進み、各所で春祭が齋行された。
宗像護国神社春季大祭では、福岡県護国神社宮司・田村豊彦氏、宗像・福津両市の遺族連合会長をはじめ多くのご遺族が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、遺族並びに両市民の弥栄が祈念された。
同刻儀式殿に於いては、交通安全講話が齋行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。
午後二時から、本殿に於いて献茶祭が行われ日頃熱心に茶道を学んだ当大社巫女が、南坊流の袱紗さばきも爽やかに御点前を披露した。



氏子奉幣使を御奉仕された花田祐輔氏



齋館前での列立

大祭も無事齋行され、春の一大神事も滞り無く終了した。
この春季大祭であるが、昭和三十年代まではこの時期に当大社所蔵の御神宝・古文書を虫干しし一般に公開する祭事が行われていた。これを秋の「放生会」に対し「保存会」と称し、人々の楽しみとなっていた。

昭和三十一年の宝物殿竣工に伴い、保存会の呼称もいつしか耳にしなくなりましたが、今も昔もこの保存会(現「春季大祭」)の時期は、神郡宗像に春を告げる節目の季節として多くの人々が境内に足を運んでいる。

氏子奉幣使

花田 祐輔 (福津市渡)

主基地方風俗舞奉仕者

(舞方) (歌方)
吉田 光利 石津 典秀
清水 陽介 吉田 敏幸
中野 久志 中野 正徳
松井徳一郎 福崎 武志

浦安舞奉仕者

高向 紘子 (玄海中二年)
北原あかり
谷口 姫奈
永島 晴奈

海洋神事奉賛会事業功労者

花田 経広 (宗像漁協・本所)
永島 義和
沖西 克己 (同・大島支所)
船越 信幸
児島 恒治 (同・地島支所)
山下 康生
田畑 勝博 (同・福岡支所)
広渡 和幸
井上 靖基 (同・津屋崎支所)
魚住 昌宏
北野 一広 (鐘崎漁協)
権田 美幸

平成二十二年度 定例責任役員会開催



三月二十三日、勅使館にて平成二十二年度の定例責任役員会が開催され、平成二十二年度予算案と老朽化したトイレの建て替えが審議され承認された。

当大社の神苑は今から約四十年前の昭和四十六年に大規模な造営事業が完了し、ほぼ今日の境内環境が整えられ

た。現在境内には身障者用を含め計四カ所のトイレがあるが、最も多くの参拝者が利用される第一駐車場に隣接したトイレの老朽化が激しく、清潔で美しいトイレの要望が以前より高かった。

今回の建て替え計画では、従来のトイレの場所が表参道より少し奥まった場所にあり見付けにくい、管理する側も

目が行き届きにくいといった防犯上の観点からも見直しが行われた。その結果、女性や障害者の方にも利用しやすい、景観を損なわず参拝者からも見付けやすい場所を選定した計画案が役員会に提出された。予定では早急に入札を行って業者を選定して工事に取り掛かり、十

二月中には竣工させ、新年に間に合わせる予定である。

生マグロ奉納

三月二十七日、和歌山県の南端、三重県との県境に位置し、マグロやサンマ等の遠洋漁業の基地として知られる那智勝浦漁協より、はえ縄漁で捕られた約三十キロのキハダマグロが奉納された。

神職二人がかりですぐに御神前に奉納し奉告祭を斎行、勝浦漁協の皆様の航海安全と豊漁が祈念された。

このマグロは四月一、二日の春季大祭時の直会で振る舞われ、参列者からは思わぬ恩恵に笑みがこぼれていた。

勝浦漁協の皆様の、今後益々の御健勝と御発展を心より御祈念申し上げます。

地元総代へ感謝状贈呈



三月二十九日春季大祭総代奉仕の折りに、当大社より二十一年度を以って退任される地元総代の方々に感謝状贈呈式が行われた。

当日は晴天に恵まれ、午前八時三〇分より地元総代、協力会の方々にご参集いただき、春季大祭に向けて境内各所の諸準備等のご奉仕をい

ただいた。

奉仕作業終了後、齋館で二十一年度を以って退任される五名の総代

の方々に感謝状と記念品の授与が行われ、当大社渡邊禰宜が「永年のご協力誠にありがとうございます。総代の任期は終了しても、宗像大社の氏子に変わりはありません。今後も一氏子として大社の諸行事への参加、協力をお願いしたい」と挨拶した。その後

受賞者は下記の通り (順不同)

- 中野 健介氏
- 吉武 政和氏
- 中野 正利氏
- 花田 清巳氏
- 岩佐 剛氏



春季奉納剣道大会開催

四月四日春季恒例の剣道大会が、玄海中学校体育館にて行われた。

当日は好天に恵まれ、午前九時の開会式には参加者(小学生)・審判員・父兄ら多くの人が体育館に集合、一同神職よりお祓いを受け宗像大



社を遥拝した。その後日本剣道形・居合の模範演舞が行われた。又模範演舞終了後大社へ移動し居合の奉納が行われた。

試合が始まると、日頃稽古で鍛えた成果を発揮しようと、掛け声を張り上げて相手に挑む姿が印象的であった。団体戦では自由ヶ丘中学校・城山中学校が男女共に三位以内に入るなど、健闘をみせた。約五時間に亘る熱戦も午後二時には幕を閉じ、自分の力を出し切った清々しい表情で体育館をあとにした。



鎮国寺花まつり

宗像大社・鎮国寺を約三〇〇名が大行列

春の陽気に包まれた四月四日、鎮国寺花まつりの稚児行列が行われた。

この「花まつり」は宗像観光協会が主催し、三月二十九日～四月二十八日までの一ヶ月間開催されており、地域の子供達に両寺社を身近に感じてほしいと、期間中お釈迦様の誕生日である四月八日に近い日曜日に合わせこの稚児行列

が催され今年で四年目となる。

宗像大社より鎮国寺までの約一キロを宗像市内外の稚児約一二〇名を含む延べ三百名が参加した。当日は快晴に恵まれ汗ばむ程の陽気の中、続々と稚児達が参集、当社斎館にて稚児衣装に身を整えた。午前十一時、当社本殿に



おいて正式参拝し宗像大社氏子青年会、ボーイスカウトによる誘導・警護のもと約三百名の大行列

は鎮国寺へと向かった。多様な花が咲き乱れる境内に到着すると恒例となった玄界高校邦楽部による太鼓演奏・表千家三上宗生祥氏による野点、玄海料理人会による特製振舞い鍋等に加える餅撒きステージショーが催され、両社寺の春の一日は大いに賑わいをみせた。



優勝者

団体戦

小学生 宗像東部教室
中学生 男子 河東中学校
女子 玄海中学校

個人戦

小学生
一年 田中 祐次郎(南郷)
二年 井上 夏実(河東西)
三年 山田 大樹(自由ヶ丘)
四年 山口 楓斗(河東西)
五年 阿部 良我(赤間西)
六年 安永 菜摘美(玄海)
中学生
男子 新垣 武蔵(中央中)
女子 河野 里穂(玄辰館)

(続)

浜の奇物

245

いしいただし



戦意高揚を目的とした戦争画(作戦記録画)も、戦局の悪化と共に苦戦の様子があらわれてくる。緒戦の大勝利に国民は酔い、動員された画家達

も、連日勝利の報道に驚喜した。だが翌十七年には攻撃から急速に戦況は悪化し、防禦に転じ各地で苦戦を強いられる。特に十七年のミッド

ウエー海戦は空母四艦と航空機を失ない敗北の序曲であった。画家達の作品の中にも、その戦局の悪化が如実にあらわれてくる。

絵ハガキにはないが、橋本八百二の「サイパン島大津部隊の奮戦」藤田嗣治の「アッツ島玉砕」。海でもミッドウエー海戦の大敗北は当初隠されていたが、四空母の一艦飛龍は最後まで奮戦したが、攻撃を受け航行不能となり、味方駆逐艦に沈められた。司令官・艦長と退去将官の別れの盃をくみかわす「提督の最後」は悲愴感が漂っている。海と共に十七年のガダルカナル戦も苦戦。補給船を絶たれて食糧が

国民に見せ、最後の決意を迫っている。画題も血戦・死闘・最後、玉砕等が目につく。「戦意高揚の尖兵だった戦争画には、いまなお後ろめたいイメージがつきまとう。これを評価する姿勢は、大東亜戦争肯定論につながりかねない」と腰が引ける。だが実際の作品をみるが良い。迫力と臨場感に満ちた画面はこれがソファに寝そべる裸婦を描いていた画家の作品かと疑うほどだ。技術的にも高いものが多い。負傷した兵が、水溜まりに写った自分の血まみれの姿をみて驚く場面を描いた宮本三郎(飢渴)のように、戦意高揚とは別次元のものもある。御用絵師よろしくまとめ上げたつまらぬものがある半面、中村研一の「コタ・バル」のような全力を絞って描かれた代表作もあるのだ。戦争画肯定と戦争肯定とは別物だと思ふ(戦争と美術・辻惟雄)



上.提督の最後 中央.密林の死闘 右.〇〇部隊の死闘

藤田嗣治の「〇部隊の死闘」佐藤敬の「密林の死闘」は、共にニューギニア戦線を描いたもので、英豪軍とのジャングル肉弾戦である。重く暗い色調に画家たちは、戦局の厳しさを語りかけている。

田嗣治の「血戦ガダルカナル」。宮本三郎の「飢渴」等はガダルカナル戦をえがいている。軍は戦局の悪化と共に凄惨な戦闘場面を



その後、米国側から無期限貸与され、現在国立近代美術館に収蔵、補修をして数点ずつ展示されているというが、一五七点全作品が返還されるベきもので(米側が接収する意味もない)また一堂に集めて公開すべきだと思う。これら戦争画は作戦記録画であり、米側という単なるプロパガンダだけでなく、大東亜太平洋戦争の歴史の場面、戦闘場面が描かれている。また美術的に高く評価されているものもある。そして過去の合戦絵巻にも通ずる。戦争を知る人、知らない人もそれぞれがこの絵から学ぶことや読み取ることを願ってやまない。



勝ってくるぞと勇ましく

戦争画に触れた機会に次号では是も書いておきたい人がある。大社の神宝館におられた堺豊三郎氏である。ノモンハン事件から徐州会戦、ガダルカナル戦、ビルマ作戦に参加した戦争の証人を紹介したい。

第五八五回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



評 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
赤き服ためらいつつも着ておりぬ今年までよと心に定めて
加齢と共に一つづつ失せてゆく夢、でも洒落することは
長寿に通じます。お気に入りの服はいつまでも着て下さい。

評 福津市 若木台 野間 精一
三本を束ねて高き煙突の煙は流るる洞海湾へ
脱公害と省エネの象徴のような煙突か、洞海湾の固
有名詞が作品にひろがりを与えていて透逸。

評 福津市 若木台 山崎 公俊
紅梅の村社へむかふ登り坂神話のなごりのことき残雪
下句のフレーズは新鮮で素晴らしい。でも折角のフレーズ
も村社では生きないのでは、詩的真実として社としたい。

評 宗像市 土 穴 山本 静子
州知事に抱き上げられて祝福の中村哲氏の写真に見入る
事実のワンカットに過ぎないが、命を張り地に着いた援助
を通した中村医師への讃歌である。

評 北九州市 八幡西区 吉田ウト子
満開の緋桜映し笑みあるたる手鏡みがく父の忌めぐり来
かつての病床での父の姿であろう。結句は「今日を」とすつきり述べたい。

評 宗像市 田 久 巻 桔梗
メタボだと自覚のあるや池の鯉参拝客の来る前に跳ぶ
飼われて丸々と太った鯉には鯉の理由があつて跳ねるのだが、それも
メタボ対策ではとした処に一種のお可笑味がある。「来るは来ぬ」では。

評 北九州市 八幡西区 豊田 光子
着陸の体勢に入る子の操縦展望台より見届けて来ぬ
変った歌材だが、述べ方がゴタゴタしている(着陸の体勢
に今入りたるは子の操縦なり見守りてゐる)はいかが。

評 福津市 星ヶ丘 佐々木和彦
障子をばあければ庭をつつとつとくろつぐみ去る藪柑子へと
黒鶉の動きをよくとらえているが、初句の「をば」は耳障り
なので「明障子」とし、「去る」は「走る」としたいが如何。

評 宗像市 日の里 大和美由紀
鉄琴を叩けば響く「故里」を口ずさみゆくメロディの橋
旅での一場面か、すつきりと詠われている。

評 うきは市 浮羽町 向 則正
病癒へ咲き盛りある河津桜妻と連れだち雨の中見る
これも旅の歌。「咲き盛りある」と詠っているので結
句の「見る」は不要で「行く」とすべきである。

評 福津市 中央 池浦千鶴子
やぶ椿の紅き一りんを手折りたり手造りの壺ひきたせむと
やさしい風流心である。三句は「手折りきぬ」も考えられる。

評 宗像市 田野 森 甲子
朝の庭白と朱色の木瓜の花こぼれ咲きをり雨にぬれつつ
風情ある雨である。「こぼれ咲き」は、はみ出す程の満開の意である。

評 北九州市 戸畑区 田中ハツセ
行き摺りの人の引く犬吠えもせず短かき足にて近寄りてくる
作者の持つ犬のイメージ(大きくて逞しい)と違った短
足のマルチーズだろうか、だから歌が生れたのだろう。

評 北九州市 八幡西区 遠藤 幸子
見わたせる河原を黄に染む菜の花の甘きかほりにいざなはれ行く
「見わたせる」の完了形と、これから「行く」の時間空
間が合わないので「遠賀川川原を染める」としたい。

評 福岡市 中央 相良 公子
白球を追ひて野山をかけめぐるとき放たれて心軽やか
白球はゴルフボールと考えるが、とすると「野山」は
疑問である。整備されたものだから「追ひて」のあと
は(二日かけめぐるとき放たれし心軽やか)としたい。

評 福岡市 南区 井田有久衣
四十路前夫の教え子還暦を迎えし今は面影もなし
「四十路前夫の」は「四十路前の夫の」か「四十年前に
夫の」か判らないのが残念。助詞は大切である。

評 福岡市 南区柏原 加野シノブ
七分咲き桜の花も咲きそめて球児の声や高く響きぬ
「七分咲き」と「咲きそめ」は時期的におかしいので(七分咲きの
桜となりし公園に球児の声の高くひびきく)とすべきだろう。

評 選者詠
たつぷりと濡れたる庭にまたも雨ドイックロッカス花となりたり
雨あとの屋根にすべりし大鴉あたり見廻し止り直しぬ
テニスコートに野兎のきて遊びをり波止岬国民宿舎の夕べ

第五六十回 俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
雨降りて桜おそしと舞う蝶や
宗像市 日の里 花田いつ枝
御所言葉零れさうなる難納
宗像市 平井 占部 詩子
うつくまる象の背なめく枯古墳

編集後記

取材依頼は、世界遺産暫定リスト記載以前から年間を通してありましたが、最近多いのがパワースポットやスピリチュアル関係の取材です。女性ファッション誌やフリーペーパー(福岡が発祥とのこと)、四十五歳男性誌、旅行誌などです▼数ページを割き神社特集や神社仏閣特集に掲載されるわけですが、当大社においては沖ノ島ではなく参拝可能な辺津宮を中心に、〇〇神社のことがすい、この御守を受けるべきであるといった具体的な内容で、そこには必ず監修者がつかれます▼その監修者も以前は素性不明な方が多く掲載をお断りする場合が多かったのですが、最近ではテレビでお見かけする著名な方や、時には本社本庁のお墨付きをいただいた編集者、要するに神社のことをよく理解された方も電話をさされてきます▼神徳宣揚の立場から無下に断らずよく精査するわけですが、神職ではカバーできない部分を一般の方々協力いただいているように思えます。年齢性別問わず、多くの皆様が神社や祭りに関心を寄せていただければと存じます (塚)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

宗像大社社務所
発行所 宗像

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円